

2015年度
(平成27年度)

事業報告書

目次

| | | |
|-----|-----------------|----|
| I | 2015年度事業報告 | |
| | 1. 国内における平和構築活動 | 2 |
| | 2. 海外における平和構築活動 | 12 |
| | 3. 財務体質の強化 | 15 |
| II | 組織 | 16 |
| III | 会議 | 20 |



公益社団法人
日本ユネスコ協会連盟

2015年度 事業報告にあたって

2015年度、公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟はさまざまな活動を順調に展開することができました。これもひとえに会員各位をはじめ多くの企業、団体、個人の方々のご理解とご協力があったることと、心から感謝申し上げます。

民間ユネスコ運動を推進する組織として、私達はこれまで以上に「未来世代」を意識し、社会が抱える課題解決に向け、様々な活動を実施いたしました。

国内においては、「国連持続可能な開発のための教育（ESD）」の推進のため、各地ユネスコ協会においても当該地におけるユネスコスクールとの連携への取組みが、「ESDパスポート」の活用などを通して順調に増えてまいりました。全国を9つのブロックに分けて毎年行っているユネスコ活動研究会においても「ESDとユネスコスクール」を2014年度に引き続き共通テーマに掲げ、地域ごとにESDの視点から具体的な課題を掘り下げました。一方、ESDへの取組みやユネスコスクールとの連携において、地域によって差が見受けられるようになってきたことは、今後の課題と言えます。

2015年度、青年を対象とした新しい事業として、これまでのアジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟（AFUCA）のネットワークを活用し、高校生の交流事業「日・中・韓青年文化フェスティバル」を開始しました。これは国家間では様々な課題を抱えながらも次世代は信頼と協力関係を築き、友情を育むことが肝要であると日・中・韓3カ国のユネスコ協会・クラブ連盟の一致した考えのもと、第1回目は、中国北京で開催され、3カ国にとって共通の課題である環境問題をテーマに掲げ、参加した高校生の間で活発な意見交換が行われました。

「世界寺子屋運動」ではカンボジア、アフガニスタン、ネパールの貧困地域を対象に識字教育、収入向上プログラム、復学クラスに力を注ぎ、識字クラスだけでも3,231人が修了することができました。ネパールで4月に発生した震災に際しても、皆様からの募金を元に、カトマンズ周辺の寺子屋で仮設住宅支援や衣料品の支援のほか、貧困世帯に効果的な支援（奨学金や職業支援など）を行いました。国内においては引き続き、東日本大震災被災地の子どもたちを支援する奨学金事業で926人の遺児孤児と、734人の経済的困難家庭の生徒に奨学金を提供しました。

今後ともUNESCO憲章の理念に基づき、平和な国際社会の実現を目指しつつ、社会課題解決のための努力を積み重ね、具体的な成果をあげていく努力を続けてまいります。引き続き皆様のご理解とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

1. 国内における平和構築活動

(1) 普及実践活動

① 第71回日本ユネスコ運動全国大会 in 和歌山

全国のユネスコ会員が一堂に会し、その年に最もふさわしいテーマについて研鑽を積み、民間ユネスコ運動のメッセージを社会に発信することを目的に、2015年度は和歌山県ユネスコ連絡協議会、和歌山ユネスコ協会とともに、和歌山県和歌山市で開催し、約1,000人が参加した。UNESCOが提唱するESDに関するパネルディスカッションや地元の子どもの発表、漫画家で公益財団法人日本宇宙少年団理事長である松本零士氏による講演や和歌山の伝統文化に関する講演、世界遺産に関するパネルディスカッションなど盛りだくさんの内容で行われた。

大会テーマ 「持続可能な平和のために！」～“会話”を広げるユネスコ～

プログラム 特別講演 松本 零士 漫画家・公益財団法人日本宇宙少年団理事長
「宇宙と子どもと平和」

パネルディスカッション①「え～これもESD? 2015GAPがスタート」

②「歩きましょう!紀伊山地の霊場と参詣道」

事例発表 「子どもたちによるESD活動発表」

講演 サイモン・ワーン 和歌山大学観光学部特任教授

「和歌山の伝統文化」

日程 2015年6月6日(土)～7日(日)

会場 和歌山市民会館 大ホール(和歌山県和歌山市)

主催 日本ユネスコ協会連盟、和歌山ユネスコ連絡協議会、和歌山ユネスコ協会

後援 外務省、文部科学省、日本ユネスコ国内委員会、国際連合広報センター、和歌山県、和歌山市、和歌山県教育委員会、和歌山市教育委員会など

協力 株式会社ジェイアール東日本企画、富士オフィス&ライフサービス株式会社 など

② ブロック別ユネスコ活動研究会

ユネスコ協会会員の自己研鑽を図り、ユネスコ活動の情報交換や経験交流を通じて、ブロック内におけるユネスコ活動を活性化させることを目的に、ESD/ユネスコスクールを共通テーマとして、下記9ブロックで研究会を開催し、合計で約2,000人が参加した。

| | | |
|-------------------|-----------|-----------------------|
| 東北ブロック・ユネスコ活動研究会 | (秋田県秋田市) | 2015年7月25日～26日 |
| 中部東ブロック・ユネスコ活動研究会 | (静岡県静岡市) | 2015年9月12日～13日 |
| 北海道ブロック・ユネスコ活動研究会 | (北海道室蘭市) | 2015年10月17日～18日 |
| 関東ブロック・ユネスコ活動研究会 | (栃木県佐野市) | 2015年10月24日 |
| 近畿ブロック・ユネスコ活動研究会 | (京都府福知山市) | 2015年10月24日 |
| 中部西ブロック・ユネスコ活動研究会 | (岐阜県大垣市) | 2015年10月31日～ 11月1日 |
| 四国ブロック・ユネスコ活動研究会 | (香川県丸亀市) | 2015年11月14日～15日 |

| | | |
|------------------|----------|-----------------|
| 九州ブロック・ユネスコ活動研究会 | (大分県大分市) | 2015年11月14日～15日 |
| 中国ブロック・ユネスコ活動研究会 | (鳥取県米子市) | 2015年11月21日～22日 |

③ 民間ユネスコ運動の日、「平和の鐘（かね・おと）を鳴らそう！」キャンペーン

各地ユネスコ協会が主体となって、7月19日の民間ユネスコ運動の日と8月15日を中心に、全国各地でユネスコ活動を広く社会に伝える活動を実施した。恒例となった「平和の鐘（かね・おと）を鳴らそう！」は全国の協会のうち約100協会が参加し、平和を願い、多彩な活動を展開した。

(2) 青少年活動

① 東日本大震災子ども支援募金

2011年3月に発生した東日本大震災からの復興5年目となる2015年度、引き続き多くの企業、団体、個人のご協力を得て、以下の活動を行った。

A) ユネスコ協会就学支援奨学金

経済状況が悪化した家庭の子どもに、原則として月額2万円を3年間給付するもので、岩手県宮古市、山田町、大船渡市、宮城県山元町、亶理町、多賀城市、岩沼市、福島県相馬市、いわき市、新地町、浪江町、富岡町、大熊町、双葉町の計14自治体で合計734人の生徒に奨学金を給付した。(※東日本大震災による遺児孤児を除く。)

B) MUFJ-ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金

三菱UFJフィナンシャル・グループとの協働により、2011年4月に「MUFJ・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金」を設立した。本基金は、震災により遺児・孤児となった子どもたちを対象に、小学校入学時から高校卒業時まで奨学金（開始時に一時金10万円、月額2万円）の給付を行うもので2015年度は、遺児・孤児926人に給付した。また、奨学金の他にも、心豊かな成長プログラムを継続実施した。

C) 力士会とともに被災地の相撲場建設

力士会（会長：横綱白鵬関）の協力をえて、福島県会津若松市での新相撲場建設を準備中。着工・竣工は2017年度の予定。

D) アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム

アクサ生命保険株式会社の協力ならびに日本ユネスコ国内委員の及川幸彦氏によるコーディネートのもと、東日本大震災の経験や教訓を全国の学校防災につなげることを目的に、減災・防災教育に取り組む全国の小・中・高校を対象にした支援事業を継続実施した。応募校から21校を選抜して助成金を支援した。あわせて、助成校を対象に実施した「教員研修会」においては、気仙沼市教育委員会の協力を得て、東日本大震災の教訓を活かした同市の防災教育のカリキュラムや教育実践を視察し、これからの防災・減災教育のあり方などを多角的に学び、各地の防災教育の強化に

つなげた。さらに、助成校がそれぞれの活動の成果を発表する「活動報告会」を都内で実施した。

E) マッチング募金

企業の協力を得て、被災地へ音楽を通じた教育支援や、園児、児童たちとのふれあい交流事業などを通じてコミュニティの再生を支援した。

F) 「東日本大震災 教育復興支援レポート2014」

募金により実施した教育復興支援活動の成果を募金者に報告するための、活動報告書を制作・配布した。

②青少年活動支援

A) 「ユネスコ協会ESDパスポート」プロジェクト

子どもたちが世界や地域社会の課題に目を向け、自らの問題として捉え、考え、自発的に行動することを目的に、ESDパスポートを持った子どもたちが世界や地域社会の課題に目を向け、課題解決のために行動するボランティアの参加促進のツールとしてパスポートを発行・配布した。ユネスコ協会や地域の団体が主催するボランティア活動に参加を奨励し、参加回数に応じてユネスコ協会から活動認定書を発行し、ボランティア体験発表会等で顕彰した。3年目の2015年度は全国で30の都道府県ユネスコ連絡協議会・ユネスコ協会が地域のユネスコスクール等の学校への働きかけを実施した。

—参加都道府県連、協会—

知床ユネスコ協会、室蘭ユネスコ協会、白石ユネスコ協会、いわきユネスコ協会、藤岡地方ユネスコ協会、前橋ユネスコ協会、成田ユネスコ協会、四街道市ユネスコ協会、新宿ユネスコ協会、鎌倉ユネスコ協会、甲府ユネスコ協会、静岡ユネスコ協会、磐田ユネスコ協会、富山ユネスコ協会、氷見ユネスコ協会、ふくいユネスコ協会、名古屋ユネスコ協会、豊橋ユネスコ協会、岐阜県ユネスコ協会、大垣ユネスコ協会、大阪府ユネスコ連絡協議会、芦屋ユネスコ協会、岡山ユネスコ協会、津山ユネスコ協会、防府ユネスコ協会、岩国ユネスコ協会、徳山ユネスコ協会、徳島ユネスコ協会、新居浜ユネスコ協会、沖縄県ユネスコ協会

B) 青少年ユネスコ活動助成

日 時 2015年5月12日（審査会実施日）

内 容 59のユネスコ協会（61事業）に助成金を拠出し、地域における活動を通じた民間ユネスコ運動の進展を図った。

申請対象分野と助成額

分野1 「わたしの町のたからもの」絵画展事業等／助成額：1協会あたり上限5万円

分野2 ユネスコ協会に所属する青年が中心となつて行う社会的課題の解決に資する事業／助成額：1協会あたり上限20万円

分野3 ユネスコスクールや学校内ユネスコ活動とユネスコ協会の連携強化に資

する事業（例：ユネスコスクール対象活動発表会、学校教員向けユネスコスクール研修会等）／助成額：1 協会あたり上限 5 万円

審査会での審議を経て、以下の協会・クラブに助成を行った。

札幌ユネスコ協会、石狩ユネスコ協会、横手ユネスコ協会、遠野ユネスコ協会、水沢ユネスコ協会、白石ユネスコ協会、新潟市ユネスコ協会、福島ユネスコ協会、日光ユネスコ協会、宇都宮ユネスコ協会、日立ユネスコ協会、北茨城ユネスコ協会、茨城県西地方ユネスコ協会、土浦ユネスコ協会、茨城県ユネスコ連絡協議会、水戸ユネスコ協会、ひたちなかユネスコ協会、深谷地方ユネスコ協会、寄居地方ユネスコ協会、四街道市ユネスコ協会、八街ユネスコ協会、富里ユネスコ協会、柏ユネスコ協会、成田ユネスコ協会、としまユネスコ協会、渋谷ユネスコ協会、鎌倉ユネスコ協会、静岡ユネスコ協会、沼津ユネスコ協会、富山ユネスコ協会、岐阜県ユネスコ協会、ふくいユネスコ協会、長浜ユネスコ協会、舞鶴ユネスコ協会、奈良ユネスコ協会、川西ユネスコ協会、宝塚ユネスコ協会、三田ユネスコ協会、因島ユネスコ協会、山口ユネスコ協会、下関ユネスコ協会、徳島ユネスコ協会、久留米ユネスコ協会、佐賀ユネスコ協会、熊本ユネスコ協会、仙台ユネスコ協会、秩父ユネスコ協会、新宿ユネスコ協会、全国的青年連絡組織、杉並ユネスコ協会、長野ユネスコ協会、北海道ユネスコ連絡協議会、岩手県ユネスコ協会連盟、玉川大学ユネスコクラブ、千葉県ユネスコ協会連絡協議会、市川市ユネスコ協会、南砺ユネスコ協会、名古屋ユネスコ協会、大阪ユネスコ協会

その他

- ・全国的青年連絡組織が実施する活動への助成を行った。
- ・青年外部研修補助制度

UNESCO 等の実施する国際会議等や、国内外で外部団体が行う研修会への参加旅費等一部を補助し、派遣する取組の 2 年目。本制度を活用して、のべ 4 名が「日・中・韓青年文化フェスティバル」、「第 33 回開発教育全国研究集会 in 北海道」、「備蓄水でユネスコ活動費用を捻出する方法とは～VE 手法を体験するワークショップ～」を受講した。

C) 第 47 回ユネスコ子どもキャンプ in 千葉

1969年に第1回キャンプを実施して以来、47回目を迎えた。小学4年生から中学3年生までの参加者46人と青年スタッフ58名が千葉県立内浦山県民の森に参集し、自然体験活動を通じたプログラムの中でユネスコ活動の学習と理解を深めた。

日時 2015年8月2(日)～5日(水)

場所 千葉県立内浦山県民の森(鴨川市)

主催 日本ユネスコ協会連盟、千葉県ユネスコ協会連絡協議会

後援 文部科学省、日本ユネスコ国内委員会、千葉県、千葉県教育委員会、鴨川市、鴨川市教育委員会、千葉日報社

D) 青年事業情報交換会

青年のユネスコ活動への参加促進および青年事業を体系的に検討する「青年事業情報交換会」を青年評議員や全国的青年連絡組織代表を交えて評議員会開催翌日に実施した。

E) 寺子屋リーフレット制作プロジェクト

小・中・高等学校を対象に世界寺子屋運動を題材としたプロジェクト型学習の普及を図ることを目的として、児童・生徒が非識字という世界的課題を学び、書きそんじハガキ回収による募金協力を呼びかけるリーフレットを制作する学習プロジェクト。プロジェクトを通じて公正な社会の実現と教育の大切さを学ぶ機会を提供した。

2015年度は全国から23校、約2,000人の児童生徒が参加した。

F) 東日本大震災を心と記憶にとどめるユネスコ・ボランティア交流ツアー

8月20日～23日に、高校・大学生、社会人11名、坂口一美理事、二瓶和敏理事が参加し、東日本人震災の被災地を訪問し、現地でのボランティア活動、気仙沼高校との交流、民泊などを経験した。

G) KAKIHASHI Project-The Bridge for Tomorrow-カナダとの高校生交流事業(招聘と派遣)

2013年度から2年間にわたる事業として受託した標記外務省拠出プロジェクトについて、1年後アンケートを実施し、最終報告書を提出した。

③「守ろう地球のたからもの」(通年)

持続可能な開発のための教育(ESD)の推進を目的に以下の事業を行った。

A) 世界遺産「白神山地」周辺地域での育樹活動

三菱UFJフィナンシャル・グループの協力を得て、2008年～2012年の5年間に植樹した約10万本の苗木の育樹活動を行った。2015年6月27-28日、三菱UFJフィナンシャル・グループ社員50人が育樹作業にボランティア参加した。

B) 第40回「みどりの絵コンクール」

三菱UFJフィナンシャル・グループの協力を得て、三菱UFJ環境財団の「みどりの絵コンクール」事業を共催した。応募総数24,612点の中から、最優秀賞9人、優秀賞34人、入選406人を選考し、2015年12月5日、東京都千代田区で最優秀賞の表彰式を実施した。

④ユネスコスクールへの支援

1. ユネスコスクール新規登録校へのプレートを地元ユネスコ協会の協力を得て30校に寄贈した。

2. ユネスコスクール高校生を対象とした「第5回 ESD 国際交流事業」については、11月13日パリで起きたテロ事件を考慮し、2015年度は実施を見送った。

3 ユネスコスクールの ESD 学習を支援する「ESD アシストプロジェクト」

三菱東京 UFJ 銀行の協力を得て、全国 100 校に総額 9,779,324 円の助成を行った。

4 ESD教材の寄贈

三菱東京 UFJ 銀行の協力を得て、ESD 教材「豊かな自然編」と「豊かな世界遺産編」を学校に寄贈する協働事業を行った。また、ESD 絵本『サクラソウのひみつ』を保育園・幼稚園等に寄贈した。

⑤「三菱アジア子ども絵日記フェスタ」展示会の共催

アジアの非識字問題解決への意識啓発活動として、1990年の国際識字年以来、三菱広報委員会、アジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟と協同して行ってきた。2015年度はアジア24の国・地域の6歳～12歳の子どもたちが「伝えたいな、私の生活」をテーマに描く絵日記コンテストの応募から選考作業など、2016年7月の国際表彰式に向けた準備作業を行った。

主催 三菱広報委員会、アジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟 (AFUCA)、日本ユネスコ協会連盟

⑥MSD サイエンススクール

MSD 株式会社と、「いのちと健康」をテーマに小学校5、6年生を主な対象にした「サイエンススクール」出前授業を協働で実施した。2015年度は、全国9校で授業を行い、合計538人の子どもたちが、身体のメカニズム、薬の発見、科学者たちのルール、軟膏づくりを体験し、生命や科学への興味をもつきっかけを得た。

実施9校 (実施順) :

京都市立下京渉成小学校、足利市立東山小学校、信州大学教育学部附属長野小学校
熊谷市立佐谷田小学校、静岡市立森下小学校、東京都中央区立月島第一小学校
土浦市立荒川沖小学校、熊谷市立長井小学校、いわき市立四倉小学校

協力ユネスコ協会

京都ユネスコ協会、足利ユネスコ協会、長野ユネスコ協会、静岡ユネスコ協会、
土浦ユネスコ協会、いわきユネスコ協会

⑦スタディツアー

1) 高校生カンボジアスタディツアーの実施

公益財団法人かめのり財団の助成を受けて8月12日～21日にかけて、カンボジアスタディツアーを実施した。ユネスコスクール校長または全国のユ協会長推薦を受けた学生を対象とし、47人の応募の中から10人が選ばれ、現地に派遣された。なお、事後活動を含めた報告書も参加高校生の企画により作成し、関係各団体に配付された。

2) 教員対象カンボジアスタディツアーの実施

新規の取り組みとして、学校教員を対象に8月12日～16日にかけて、カンボジアスタディツアーを実施した。パイロットプログラムの位置付けで、「寺子屋リーフレット制作プロジェクト」を推進してきた教員を中心に7名が参加し、帰国後の児童生徒への指導や書きそんじハガキ回収の推進などに活かされた。

⑧日・中・韓青年文化フェスティバル

7月25日～29日(7月24日は成田での事前研修会)、中国・北京へ、ユネスコスクールの高校生12名と団長として松波孝之理事、教員2名を派遣。日本、中国、韓国の高校生が「エコロジカル文明と青年の責任」のテーマのもと、ディスカッションや文化交流を行った。

(3) 組織の拡大とユネスコ活動の充実

ユネスコ活動の普及促進活動により5つのユネスコ協会・連絡協議会が新設された。

①新設ユネスコ協会の設立

| | |
|--------------|----------------------|
| 大阪府ユネスコ連絡協議会 | 2015年6月20日第502回理事会承認 |
| 伊豆ユネスコクラブ | 2015年11月7日第505回理事会承認 |
| 郡山次世代ユネスコ協会 | 2016年1月16日第506回理事会承認 |
| 北広島ユネスコ協会 | 2016年1月16日第506回理事会承認 |
| I C Uユネスコクラブ | 2016年3月12日第207回理事会承認 |

②地域ユネスコ協会の活動振興

地域ユネスコ協会の活動を振興する為に講師の派遣を行い、また、情報共有を目的に1ヵ月に1回 構成団体会員向けにユネスコ協会便を発送した。

③理事・評議員情報交換会によるブロック内の情報共有を強化

評議員会の中で、ブロック毎に分かれ理事・評議員情報交換会を実施し、ブロック内の情報共有を強化するとともに、ユネスコ活動全体の普及促進に関する議論も行った。

(4) 世界遺産・地域遺産活動

地域の文化・自然遺産を100年後の子どもたちに継承することを目的に次の活動を行った。

① 未来遺産運動(通年)

A) プロジェクト未来遺産2015の募集と選定

43団体からの応募があった。西村幸夫東京大学先端科学技術研究センター所長・教授を委員長とする未来遺産委員会の審議を経て、各分野の専門家による書類選考と現地調査を行った。その結果、12月7日に開催した未来遺産委員会において下記の5団体を選考し、登録を決定した。登録証伝達式は2016年2月より各地で実施した。

「プロジェクト未来遺産2015」プロジェクト名(団体名/所在地)

1. 絶滅危惧種イトウ(サケ科)北海道尻別川個体群の復元活動

- (尻別川の未来を考えるオビラメの会/北海道虻田郡ニセコ町)
2. 京都桂川の生物多様性保全ーカヤネズミのすむ茅原を未来へつなぐ
(全国カヤネズミ・ネットワーク/京都府京都市)
 3. 山口鷺流狂言伝承者育成プロジェクト～子ども達に残す鷺流狂言
(山口鷺流狂言保存会/山口県山口市)
 4. 次世代につなごう！！「千年サンゴ」保全プロジェクト
(千年サンゴと生きるまちづくり協議会/徳島県海部郡牟岐町)
 5. 美の里を未来へ 石畳地区・村並み保存活動
(石畳自治会/愛媛県喜多郡内子町)

B) チームエナセーブ未来プロジェクト

住友ゴム工業株式会社との協働事業で、全国 10 ヶ所のプロジェクト未来遺産に登録されている団体等が行っている活動に、同社社員がボランティアとして協力。環境保護活動を展開した。

特別協力：東日本旅客鉄道株式会社、レクサス、住友ゴム工業株式会社

後 援：読売新聞社 等

連携事業：一般社団法人みらいみんよう、一般社団法人フォレストック協会、
日本再発見塾

(5) 海外との連携

① アジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟 ((Asian Pacific Federation of UNESCO Clubs, Centers and Associations: AFUCA) の活動振興 (通年)

A) 「第 30 回韓国ユネスコ協会全国大会 in ソウル」

2015 年 10 月 30 日に開催された上記大会に野口理事長が参加した。大会後、AFUCA の会合も行われ、会費や他国のユネスコ協会連盟について協議がされた。

B) AFUCA 臨時執行委員会

2016 年 3 月 25 日～27 日に韓国のソウルで臨時執行委員会が行われ、野口理事長が参加した。2016 年 9 月にカザフスタンで開催される通常執行委員会の準備会合、定款の改定、会費の変更などについて協議が行われた。

② 世界ユネスコ協会クラブ連盟 (WFUCA) への協力 (通年)

A) WFUCA 世界大会 (中国・北京)

2015 年 7 月 22 日～24 日の日程で中国・北京で WFUCA 世界会議が行われた。日本ユネスコ協会連盟からは野口理事長、川上事務局長をはじめ 3 名が参加した。世界会議には 46 ヶ国からおおよそ 200 人が参加し、WFUCA の会長をはじめとする役員選挙が行われた。また、執行委員会においては、WFUCA の定款の一部改正も提案され、同大会で承認された。

B) 第 3 回アジア・ヨーロッパ教育フォーラム

2015 年 10 月 7 日～10 日にルーマニアのブカレストで開催された「第 3 回アジア・ヨーロッパ教育フォーラム (ヨーロッパ・ユネスコ・クラブ連盟主催) に野口理事長が招待され、日本における ESD パスポート事業について発表を行った。会議にあわせて、WFUCA

の臨時執行委員会も開催された。

③ 世界教育フォーラム 2015（韓国・インチョン）

2015年5月19日～21日にかけて、UNESCOと韓国政府教育省の主催で今後15年間の世界の教育目標を策定するため開催された。政府間の合意内容は20項目に及ぶ「インチョン宣言」としてまとめられ、国連「持続的な開発のための目標（SDGs）」の目標4「すべての人に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」として統合された。日本ユネスコ協会連盟からはUNESCOから招待され、野口理事長が出席した。また、前日に開催されたNGOフォーラムにも参加した。

④ UNESCOとの連携

A) UNESCO公式サポーター

2012年2月にUNESCOと締結した日本国内での資金調達に関する協力協定に基づき、「UNESCO公式サポーター」企業である全日本空輸株式会社（ANA）より、マイルー ジ交換等によるご寄附や機内誌等での広報協力をいただいた。
またANA社員のボランティア活動として、2015年5月に上賀茂神社（京都）、10月に五箇山（富山）にて、世界遺産保全活動を実施した。

B) UNESCO芸術賞基金

本事業が既に多大な成果を挙げて当初の目的を達成したことを評価しつつ、UNESCOと日本ユネスコ協会連盟は同基金による若手芸術家顕彰事業を終了させることに合意し、新たに「青少年文化活動基金」として青少年の文化活動に活用することとなった。

(6) 普及広報活動

民間ユネスコ活動の普及・広報を目的として以下の活動を行った。

① 機関誌「ユネスコ」の発行

会員機関誌「ユネスコ」を以下の通り発行し、会員間の情報交流を促進した。

| | |
|------------------------------|--------------|
| 機関誌「ユネスコ 2015年4月号 vol.1148」 | 2015年4月1日発行 |
| 機関誌「ユネスコ 2015年7月号 vol.1149」 | 2015年7月1日発行 |
| 機関誌「ユネスコ 2015年10月号 vol.1150」 | 2015年10月1日発行 |
| 機関誌「ユネスコ 2016年1月号 vol.1151」 | 2016年1月1日発行 |

② 日本ユネスコ協会連盟概要ブックレットの制作・配布

ユネスコ活動への賛同者を増やすために、募金や寄附に関する情報を分かりやすく伝えるパンフレット等を配布した。

③ ホームページの更新・管理運営

民間ユネスコ活動を広報する「活動ニュース」、「スタッフブログ」、「会員ページ」、「トピックス」など最新情報を随時更新した。フェイスブックの登録数は2,974人（2016年3月31日現在）に増加した。

④ メールマガジン、リリース等による情報発信

メールマガジン登録者約6,000人に対し、通巻206号～212号を発行した。また、各事業の実施に当たり、広く世間に周知を図るため、必要に応じてマスコミへのリリース配信を行った。

⑤ 広報特使との協働

久保純子広報特使（まなびゲーター）、またUNESCOから任命されている二村英仁氏（UNESCOアーティストフォーピース）のご協力を得て、ユネスコ運動の普及広報にご協力をいただいた。

⑥ 広報媒体の制作と活用

A) 株式会社電通の広報協力により、書きそんじハガキ回収の呼びかける映像を制作して、ケーブルテレビや学校等で放映した。

B) 読売新聞（2016年3月11日）紙上に「東日本大震災子ども支援募金 ユネスコ協会就学支援奨学金」への募金協力を呼びかける新聞広告を掲載した。

⑦ 日本ユネスコ協会連盟との共催・後援事業の申入れ承認

他団体（省庁・役所・学校含む）や企業からの共催・後援申請への承諾を行った。

⑧ 都市対抗野球大会

2015年12月11日に第86回都市対抗野球大会で優勝した日本生命に、スポーツを通じて平和のメッセージを発信する目的で、日本ユネスコ協会連盟賞を授与した。

2. 海外における平和構築活動

(1) 世界寺子屋支援活動（通年）

“すべての人に教育を（EFA）”の目標達成のため、誰もが基本的人権としての基礎教育を受けられ、持続可能な地域の発展と平和な社会づくりに参画できる世界を目指し、開発途上国において教育機会を得られない人びとに対して、世界寺子屋運動を通じた教育支援活動を行った。また、世界寺子屋運動広報特使・久保純子氏や各種企業の協力を得て、国内の書きそんじハガキ回収や募金者を拡大するための広報活動をこれまで以上に積極的に行った。

① アジア3ヵ国での事業実施

A) カンボジア（アンコール寺子屋プロジェクト）

シェムリアップ州教育局と連携し、州内の村で子ども、成人を対象とした識字教育、技術訓練及び収入向上プログラムを実施した。2015年度は14軒目、15軒目となる新規の寺子屋が2軒完成した。識字クラスは20クラス494人が参加し、小学校を中途退学した子どもたちのための復学支援クラスでは10クラス251人が学んだ。また、新規の取り組みとして復学支援クラスを卒業して中学校に進んだ子どもたち100人を対象に制服や学用品等を支給する「進学支援プログラム」を開始した。

B) アフガニスタン（アフガニスタン寺子屋プロジェクト）

アフガニスタン教育省識字局と連携し、カブール県、パルワン県、パーミヤン県において、識字教育・技術訓練、収入向上事業を実施した。識字事業により、1169人が識字者となり、また技術訓練では革細工や服飾などで237人が訓練を受けた。またカブール市西方に隣接するパグマン郡バボ村で、15軒目となる新規寺子屋が完成し、開所式典が行われた。）。

C) ネパール（ルンビニ寺子屋プロジェクト）

世界遺産「ルンビニ」周辺の12村とカトマンズ近郊の4村で識字教育・技術訓練、収入向上事業を実施した。特に識字については、主としてルンビニにおいて今後2019年までに成人非識字者をなくす計画を立て、その2年目として約1,937人に3ヵ月間の識字後クラスを実施した。また、寺子屋の自立発展のための収益事業（魚の養殖、裁縫クラス、インターネット利用料の徴収など）を開始した。

D) アフガニスタン難民子ども支援事業

アフガニスタン難民子ども支援として、カブール市内郊外の国内避難民キャンプ4ヵ所で、冬季を子どもが無事に過ごすため、443世帯を対象に小麦や食料油、砂糖や豆などの越冬支援を実施しました。多くの団体が支援を縮小するなか、アフガニスタン難民省から高い評価を受けた。

E) ネパール地震への支援

2015年4月25日に発生したネパール中部地震への緊急支援および復興支援を実施した。緊急支援にいただいた募金を活用し、現地パートナー団体を通じて、カトマンズ

近郊の寺子屋のある 4 地域を中心に仮設住宅支援、医薬品や衣料品の支援、崩れたレンガを除去する道具の提供などを実施した。また、復興支援として、被災した子どもへの奨学金支給、地域の人びとへの防災教育やカウンセリング、安全な水の提供、就業支援などの活動も展開した。

② 世界寺子屋運動促進活動

A) NIK 日本賞

2015 年 10 月 22 日、NHK の教育コンテンツの国際コンクール「日本賞」授賞式で、「自然が先生」を企画したバングラデシュのアグアン協会対して日ユ協連賞が授与された。

B) 世界寺子屋運動促進活動

書きそんじハガキ・キャンペーン 2015 では㈱電通の協力により新たに「タンス遺産 3 兄弟」によるキャラクター登場し、動画提供も受け、身近に楽しく参加できるよう各方面で広報活動を展開した。

(2) 「一杯のスプーン」支援活動（通年）

世界寺子屋運動の支援先と連携し、貧しい人々への無償医療活動を支援した。

① アジア 3 カ国での事業実施

A) ネパール

世界寺子屋運動の支援地であるルンビニ地区において「国際仏教協会」の医院を通じて、12 の村で低体重の子どもたち 3,386 人に栄養補助食品を配布した。

B) アフガニスタン

カブール市にある「サハ医療センター」への医療活動支援を行った。一般診療、内科、小児科、産婦人科、理学療法、感染症の予防接種などで年間 11 万人以上の患者を受け入れた。栄養失調と診断された子どもたち 3,456 人には米、豆、砂糖などの栄養補助食品のセットを配布した。

C) カンボジア

カンボジアに将来にわたって安全な水を届けることを目的として、2013 年度からの 3 カ年計画「天空の杜プロジェクト」を実施中。2016 年度に全 15 軒の寺子屋で衛生教育を行うため、シエムリアップ州保健局の協力のもと、文字の読み書きの不自由な人びとにも分かりやすく工夫したテキストを開発するとともに、寺子屋のリーダー等に指導者研修を行った。

協力：株式会社富山環境整備

(3) 世界遺産・地域遺産活動（通年）

世界遺産、地域遺産を通して、国際理解を深め、自然や文化の多様性を広く一般に伝えるために以下の活動を行った。（地域遺産活動については p 8）

① カンボジア世界遺産「シンハ像・ナーガ像」彫像修復プロジェクト

世界遺産「アンコール」にあるバイヨン寺院「シンハ像・ナーガ像」の修復プロジェクトおよび人材育成を現地 NGO（アンコール遺跡の保全と周辺地域の持続的発展のため

めの人材養成支援機構：JST) とともに日本政府アンコール遺跡救済チーム (JASA) の技術協力のもと実施した。第 2 フェーズでは、バイヨン寺院入口の彫像群の修復が完了した。修復作業に従事しているカンボジア人スタッフも 4 年が経過し、技術継承が進められている。

② 世界遺産年報の発行

旧集成館など 8 つのエリアに点在する明治日本の産業革命遺産の世界遺産登録を受けて、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の特集を組み、『世界遺産年報 2016 (No. 21)』を発行した。一般財団法人日本宝くじ協会の一部助成を得て、国公立図書館、大学付属図書館、公民館、ユネスコスクール等、約 11,000 団体に寄贈した。

3. 財務体質の強化

募金促進

① 「月1いいことプログラム」(毎月引落募金) 拡大キャンペーン

継続的な協力者の拡大を目指し、募金者データの管理のため、セールスフォースの導入を実施した。

② 書きそんじハガキ回収キャンペーン(通年)

世界寺子屋運動の事業資金となる同キャンペーンについて、2015年度は特に、株式会社電通に協力いただき、マスメディアへの働きかけを強化し、大手新聞紙をはじめ様々なメディアに掲載された。また、2016年3月には、未使用切手やプリペイドカードなどの「タンス遺産」の積極的な呼びかけをおこなった。

③ 募金者への報告と継続依頼の制作・発送

1月の年間領収書送付時に、募金者に支援していただいた事業実施状況を報告し、支援者からのメッセージを伝え、継続的な支援を得るよう働きかけた。

④ 「活動報告レポート」の制作・発送

募金により実施した事業の成果を募金者に報告するために「2014年度活動報告レポート」を9,000部制作・配布した。

Ⅱ 組織

(2016年3月31日現在)

1. 理事 (29) (五十音順) (* 代表理事)

| | | | |
|------|--------|---------------------------|---------|
| 会長 | 松田 昌士* | 東日本旅客鉄道株式会社顧問 | 非常勤<維持> |
| 副会長 | 加藤 玲子 | 特定非営利活動法人目黒ユネスコ協会名誉会長 | 非常勤<会推> |
| 副会長 | 太田原 弘 | 盛岡ユネスコ協会会長 | 非常勤<構成> |
| 副会長 | 林 美紀子 | 杉並ユネスコ協会顧問 | 非常勤<個人> |
| 理事長 | 野口 昇* | 文京学院大学名誉教授 | 非常勤<個人> |
| 副理事長 | 鈴木 佑司 | 法政大学特任教授 | 非常勤<個人> |
| 理事 | 土谷 二郎 | 函館ユネスコ協会会長 | 非常勤<構成> |
| 理事 | 相良 憲昭 | 目黒ユネスコ協会会長 | 非常勤<構成> |
| 理事 | 西山 未弘 | 柏ユネスコ協会会長 | 非常勤<構成> |
| 理事 | 石田 喬也 | 鎌倉ユネスコ協会理事長 | 非常勤<構成> |
| 理事 | 松波 孝之 | 富山ユネスコ協会顧問 | 非常勤<構成> |
| 理事 | 芝本 和己 | 和歌山ユネスコ協会会長 | 非常勤<構成> |
| 理事 | 池本 和人 | 萩ユネスコ協会副会長 | 非常勤<構成> |
| 理事 | 野本 武男 | 松山ユネスコ協会会長 | 非常勤<構成> |
| 理事 | 橋村 隆介 | 熊本ユネスコ協会副会長 | 非常勤<構成> |
| 理事 | 間瀬 雅晴 | 一般社団法人日本の伝統を守る会理事 | 非常勤<賛助> |
| 理事 | 大津 和子 | 北海道ユネスコ連絡協議会会長 | 非常勤<会推> |
| 理事 | 引地 瑠美子 | 白石ユネスコ協会会長 | 非常勤<会推> |
| 理事 | 米田 伸次 | 帝塚山学院大学国際理解研究所顧問 | 非常勤<個人> |
| 理事 | 野島 嘉之 | 三菱商事株式会社 環境・CSR推進部部長 | 非常勤<維持> |
| 理事 | 野村 朗子 | 株式会社電通 総務局社会貢献部専任部長 | 非常勤<維持> |
| 理事 | 樋口 達夫 | 大塚ホールディングス株式会社代表取締役社長兼CEO | 非常勤<維持> |
| 理事 | 石川 郁香 | 柏ユネスコ協会青年理事 | 非常勤<青年> |
| 理事 | 横田 創 | 松山ユネスコ協会青年代表 | 非常勤<青年> |
| 理事 | 大木 一夫 | 株式会社エヌ・ティ・ティ・エムイー顧問 | 非常勤<会推> |
| 理事 | 坂口 一美 | 箕面ユネスコ協会会長 | 非常勤<会推> |
| 理事 | 笹井 宏益 | 国立教育政策研究所生涯学習政策研究部部長 | 非常勤<会推> |
| 理事 | 永野 弘 | 元文部科学省 国際統括官 | 非常勤<会推> |
| 理事 | 二瓶 和敏 | 二瓶総合法律事務所弁護士 | 非常勤<個人> |

(注) <構成> : 構成団体会員代表、<賛助> : 賛助団体会員代表、<個人> : 個人会員代表、
<維持> : 維持会員代表、<青年> : 青年代表、<会推> : 会長推薦

2. 監事 (3)

| | | | |
|----|-------|-------------------------|-----|
| 監事 | 小出 寛治 | 元NTTファイナンス株式会社代表取締役会長 | 非常勤 |
| 監事 | 増田 正志 | 増田公認会計士事務所公認会計士 | 非常勤 |
| 監事 | 松代 隆子 | (前)公益財団法人吉田秀雄記念事業財団専務理事 | 非常勤 |

3. 顧問 (10)

| | | | | |
|-------|------|-------|------|------|
| 尾花珠樹 | 糟谷勝一 | 児島 仁 | 千 宗室 | 西村幸夫 |
| 濱中昭一郎 | 福原義春 | 松浦晃一郎 | 村井 了 | 村田昌志 |

4. 評議員数

| 会員種別 | 人数 | 定員 |
|-------------|------|--------|
| 構成団体会員 | 99人 | 100人以内 |
| (うち青年代表) | (8人) | (9人以内) |
| (うち国内委員会委員) | (9人) | (9人以内) |
| 賛助団体会員 | 4人 | 5人以内 |
| 個人会員 | 29人 | 30人以内 |
| 維持会員 | 13人 | 15人以内 |
| 計 | 145人 | 150人以内 |

5. 会員数

| 会員種別 | 2015年度末 | 減 | 増 | 2016年度末 |
|-----------|---------|----|---|---------|
| 構成団体会員 | 286 | 4 | 5 | 287 |
| 賛助団体会員 | 19 | 1 | 1 | 19 |
| 個人・終身個人会員 | 248 | 22 | 9 | 235 |
| 維持会員 | 127 | 16 | 1 | 112 |
| 計 | 680 | | | 653 |

6. 会員の異動

構成団体会員

<人会> 5

大阪府ユネスコ連絡協議会 2015年6月20日第502回理事会承認

伊豆ユネスコクラブ 2015年11月7日第505回理事会承認

郡山次世代ユネスコ協会 2016年1月16日第506回理事会承認

北広島ユネスコ協会 2016年1月16日第506回理事会承認

ICUユネスコクラブ 2016年3月12日第507回理事会承認

<退会> 4

石川県白山ユネスコクラブ 2015年5月23日第501回理事会承認

東京ユネスコみどりの会、防府ユネスコ協会青年部、ウィズみえユネスコクラブ
2016年3月12日第507回理事会承認

<名称変更> 2

(特非) 維新隊ユネスコクラブ 2015年5月23日第501回理事会承認
大牟田ユネスコ協会 2016年3月12日第507回理事会承認

賛助団体会員

<入会> 1

特定非営利活動法人日本国際文化遺産協会 2015年9月12日第504回理事会承認

<退会> 1

特定非営利活動法人国際教育文化交流協会 2015年9月12日第504回理事会承認

個人会員

<入会> 9

中谷 薫 2015年5月23日第501回理事会承認

石神澄子、小林恵智、橋永重弘、戎井七重 2015年11月7日第505回理事会承認

白神潤一、中馬弘毅 2016年1月16日第506回理事会承認

赤城弘一、長谷川祐弘 2016年3月12日第507回理事会承認

<退会> 22

岩本政次、馬越陽子、城戸一夫、きどのりこ 2015年5月23日第501回理事会承認

峯弘 2015年6月20日第502回理事会承認

海老原常子、海老原雄一、佐藤悦子、寺尾明人、東郷良尚、薫まどか、丸橋安夫、
百瀬皓、矢野裕子、吉谷信昭、 2015年9月12日第504回理事会承認

草原克豪、丸山美千代、宮脇磊介 2016年1月16日第506回理事会承認

高橋英里子、吉目木邦彦、俵木浩太郎、山崎薫 2016年3月12日第507回理事会承認

維持会員

<入会> 1

沖縄ツーリスト株式会社 2015年9月12日第504回理事会承認

<退会> 16

NTTファイナンス株式会社 2015年5月23日第501回理事会承認

海老原眼科医院 2015年5月23日第501回理事会承認

株式会社ピーオーディ 2015年5月23日第501回理事会承認

ふくろうの夢基金 2015年6月20日第502回理事会承認

久米繊維工業株式会社、株式会社コスモ、西武鉄道株式会社、みずほ信託銀行株式会社、
フォーエバーリビングプロダクションジャパン 2015年9月12日第504回理事会承認

富士通フロンテック株式会社、株式会社EM研究機構
2015年11月7日第505回理事会承認

カルピス株式会社、電源開発株式会社 2016年1月16日第506回理事会承認

株式会社朝日新聞社、ソニーマーケティング株式会社、大阪ガス株式会社
2016年3月12日第507回理事会承認

7. 地域的なユネスコ活動の領域を代表する日本ユネスコ国内委員会委員 (2016年3月末現在)

| | |
|--------|------------------------|
| 北海道 | 安達 久美子 (小樽ユネスコ協会事務局長) |
| 東北 | 及川 幸彦 (気仙沼ユネスコ協会理事) |
| 関東・甲信越 | 横山 恵里子 (新潟市ユネスコ協会事務局長) |
| | 高尾 初江 (開倫ユネスコ協会事務局長) |
| 中部 | 今 みどり (大垣ユネスコ協会専務理事) |
| 近畿 | 中西 正人 (箕面ユネスコ協会顧問) |
| 中国 | 岡田 元子 (防府ユネスコ協会理事) |
| 四国 | 河内 順子 (徳島ユネスコ協会会長) |
| 九州 | 有里 泰徳 (都城ユネスコ協会事務局長) |

Ⅲ 会 議

1. 総 会

第66回定時総会

日 時 2015年6月20日(土) 14:30～16:30
場 所 東京都・大手町サンスカイルーム 27階(A室)
議 長 会長 松田昌士
議決権を有する社員の総数 673名
総議決権数 673個
出席社員数 383名(議決権行使書提出者を含む)
出席の社員が有する議決権数 383個

【決議事項】

- 第1号議案 2014年度事業報告書(案)および計算書類等(案)について
第2号議案 理事・監事及び評議員の選出について
第3号議案 「構成団体会員(ユネスコ協会・クラブ)の構成員が25人未満の場合、会費は人数にかかわらず構成団体会員一律年25,000円とすること(案)」について

【報告事項】

- 1 2015年度事業計画書および予算書
- 2 その他

2. 理事会

第501回理事会

日 時 2015年5月23日(土) 12:30～15:00
場 所 東京都・大手町サンスカイルーム 27階(B室)
議 長 会長 松田 昌士
出席者 19名(理事総数26名)

議 題

- I. 第500回理事会議事要録の確認
- II. 協議事項
 1. 会員の入退会について
 2. 2014年度事業報告書(案)および2014年度計算書類等(案)について
 3. 第66回定時総会について
 - (1) 構成団体会員最低会費の導入について
 - (2) 定款の改訂について
 4. その他
 - ・組織活動部会会長の総会終了までの任期延長
 - ・第72回日本ユネスコ運動全国大会の開催について
- III. 報告事項
 1. 2015年3月から5月までの事業報告および今後の日程(案)
 2. 後援・共催事業
 3. その他

第502回理事会

日 時 2015年6月20日(土) 13:15~14:00
場 所 東京都・大手町サンスカイルーム 27階 (B室)
議 長 会長 松田 昌士
出席者 19名 (理事総数26名)
議 題

- I. 第501回理事会議事要録の承認
- II. 協議事項
 1. 会員の入退会について
 2. その他
- III. 報告事項
 1. 2015年度6月の事業報告および今後の日程(案)
 2. 後援・共催事業
 3. その他

第503回理事会

日 時 2015年6月20日(土) 16:30~17:30
場 所 東京都・大手町サンスカイルーム 27階 (B室)
議 長 会長 松田 昌士
出席者 24名 (理事総数29名)
議 題

- I. 協議事項
 1. 会長の選任について
 2. 副会長、理事長の選任について
 3. 委員会等の設置について
 4. その他
- II. 報告事項
 1. 理事の役割について

第504回理事会

日 時 2015年9月12日(土) 15:00~17:30
場 所 東京都・大手町サンスカイルーム 27階 (B室)
議 長 会長 松田 昌士
出席者 23名 (理事総数29名)
議 題

- I. 第502回理事会議事要録の承認
- II. 協議事項
 1. 会員の入退会について
 2. 組織活動委員会の構成と課題
 3. その他
- III. 報告事項
 1. 世界連盟の役員改選・定款改訂

2. ブロック研究会（東北）
3. カンボジア事務所職員からの現地報告
4. 2015年度6月から9月までの事業報告および今後の日程(案)
5. 後援・共催事業
6. その他

第505回理事会

日 時 2015年11月7日（土）12：30～15：00
 場 所 東京都・大手町サンスカイルーム 27階（B室）
 議 長 会長 松田 昌士
 出席者 24名（理事総数29名）
 議 題

- I. 第504回理事会議事要録の承認
- II. 協議事項
 1. 会員の入退会について
 2. 部会の報告
 3. その他
 - ①2017年度70周年全国大会について
 - ②UNESCO記憶遺産について
 - ③共催事業について
- III. 報告事項
 1. 2015年度中間決算報告
 2. 2015年度9月から10月までの事業報告および今後の日程
 3. 2016年度全国大会に関して沖縄県ユネスコ協会より説明
 4. 後援・共催事業
 5. その他

第506回理事会

日 時 2016年1月16日（土）12：30～14：30
 場 所 東京都・大手町サンスカイルーム 27階（B室）
 議 長 会長 松田 昌士
 出席者 27名（理事総数29名）

- I. 第505回理事会議事要録の承認
- II. 協議事項
 1. 会員の入退会について
 2. 小部会からの報告
 - ① 70周年ビジョン部会
 - ② 組織運営部会
 - ③ 青年活動部会
 - ④ 定款・諸規程部会
 3. 2016年度事業計画及び予算の骨子（案）
 4. その他

Ⅲ. 報告事項

1. 日本ユネスコ国内委員会委員（新任地域代表委員）の当連盟評議員就任について
2. 2015年11月～12月までの事業報告および今後の日程
3. 書きそんじハガキキャンペーンの実施について
4. ユネスコ記憶遺産登録に関するユネスコへの申し入れについて
5. 後援・共催事業
6. その他
・全国大会・理事会・総会の旅費補助について

第507回理事会

日 時 2016年3月12日（土）15：00～17：30
場 所 東京都・大手町サンスカイルーム 27階（B室）
議 長 会長 松田 昌士
出席者 25名（理事総数29名）

I. 第506回理事会議事要録の承認

II. 協議事項

1. 会員の入退会について
2. 部会からの報告
 - ① 70周年ビジョン部会
 - ② 組織運営部会
 - ③ 青年活動部会
 - ④ 定款・諸規程部会
3. 2016年度事業計画書及び収支予算書（案）
 - ① 2016年度事業計画書（案）
 - ② 2016年度予算書（案）
 - ③ 資金調達および設備投資の見込み（案）
4. その他

Ⅲ. 報告事項

1. 2016年度1月から3月までの事業報告および今後の日程
2. 後援・共催事業
3. その他

3. 評議員会

第36回評議員会

日 時 2015年5月23日（土）15：15～18：15
場 所 東京都・大手町サンスカイルーム 27階（A室）
議 長 会長 松田 昌士
出席者 構成団体会員 44名
維持会員 3名
個人会員 15名
賛助団体会員 2名

| | |
|----------|-----|
| 青年代表 | 4名 |
| ユネスコ国内委員 | 5名 |
| 上記以外の役員 | 1名 |
| 出席者計 | 73名 |
| 委任状 | 39通 |

加盟証書 授与式

1. 滝沢ユネスコ協会
2. スポーツと平和を考えるユネスコクラブ
3. ミンガラパー・ユネスコクラブ

議 題

1. 第35回評議員会議事要録の承認
2. 2015年度1月から5月までの事業報告及び今後の日程（案）について
3. 2015年度事業計画書および予算書について
4. 第66回定時総会について
 - (1) 構成団体最低会費の導入について
 - (2) 定款の改訂について
5. その他
6. 理事・評議員情報交換会

第37回評議員会

日 時 2015年11月7日（土）15：15～18：15

場 所 東京都・大手町サンスカイルーム 27階（A室）

議 長 会長 松田 昌士

| | | |
|-----|----------|-----|
| 出席者 | 構成団体会員 | 52名 |
| | 維持会員 | 5名 |
| | 個人会員 | 19名 |
| | 賛助団体会員 | 2名 |
| | 青年代表 | 7名 |
| | ユネスコ国内委員 | 6名 |
| | 上記以外の役員 | 3名 |
| | 出席者計 | 91名 |
| | 委任状 | 34通 |

議 題

1. 第36回評議員会議事要録の承認
2. 2015年度6月から10月までの事業報告及び今後の日程（案）について
3. 組織・活動委員会からの各部会報告
 - ① 70周年ビジョン部会
 - ② 組織運営部会
 - ③ 青年活動部会
 - ④ 定款・諸規程部会
4. ネパール現地事務所職員等からの報告
5. UNESCO記憶遺産について

6. その他
7. 理事・評議員情報交換会

第38回評議員会

日 時 2016年1月17日（土）14：45～17：45
場 所 東京都・大手町サンスカイルーム 24階（E室）

議 長 会長 松田 昌士

出席者 構成団体会員 49名
維持会員 4名
個人会員 22名
賛助団体会員 2名
青年代表 7名
ユネスコ国内委員 5名
上記以外の役員 5名
出席者計 89名
委任状 33通

加盟証書 授与式

1. 大阪府ユネスコ連絡協議会
2. 伊豆ユネスコクラブ

議 題

1. 第37回評議員会議事要録の承認
2. 2015年度11月から12月までの事業報告及び今後の日程(案)について
3. 組織活動部会からの報告
定款・諸規程部会からの報告
定款・諸規程に関する質疑応答
4. 2016年度事業計画及び予算の骨子（案）
5. 書きそんじハガキキャンペーンの実施について
6. プロジェクト未来遺産「グリーン・レガシー・ヒロシマ」活動の紹介
7. その他
8. 役員・評議員情報交換会

4. 各種委員会等

理事会のもとに、加藤玲子副会長を委員長とする「組織・活動委員会」が設置され、下記の4つの部会のもとで、民間ユネスコ運動の発展にむけた審議を行った。

（1）部会

①民間ユネスコ運動 70 周年に向けたビジョン部会

部会長：加藤玲子（副会長）

部 会 員：太田原弘（副会長）、林美紀子（副会長）、野口昇（理事長）、鈴木佑司（副理事長）、石田喬也（理事）、二瓶和敏（理事）、引地瑠美子（理事）、間瀬雅晴（理事）、松波孝之（理事）

内 容：2017年に民間ユネスコ運動70周年を迎えるにあたり、10年ごとに発表してきた運動方針を新たにまとめるため、その土台となる当連盟のビジョンおよびミッションについて協議した。

開 催 日：

2015年10月19日、11月2日、2016年3月7日

②組織運営部会

部会長：林美紀子（副会長）

部 会 員：相良憲昭（理事）、吉崎晴子（評議員）

内 容：会員の入退会、とりわけ新規に日本ユネスコ協会連盟の構成団体会員として加盟を検討している団体について、加盟に向けた運営体制や活動について協議を行った。また、ユネスコ協会の今後の発展に向けた組織の様々な課題について議論した。

開 催 日：2015年8月25日、9月2日、10月6日、10月27日、11月26日、12月15日、2016年2月2日

③青年活動部会

部会長：松波孝之理事

部 会 員：鈴木佑司（副理事長）、石川郁香（理事）、小暮強志（評議員）

内 容：これまでの委員会の議論を引き継ぎ、青年リーダーの育成の視点にたつて、ユネスコ子どもキャンプや研修活動等の青年活動の効果的な実施の検討を行った。主な協議事項は下記のとおり。

- ①青年情報交換会の継続実施
- ②リーダー研修の視点も加えた「ユネスコ子どもキャンプ」の効果的な実施
- ③青年ユネスコ補助制度の普及
- ④大学ユネスコクラブとの連携の検討

開 催 日：2015年7月30日、9月6日、11月8日、2016年1月17日、3月11日

④定款・諸規程部会

部会長：二瓶和敏（理事）

部 会 員：間瀬雅晴（理事）、引地瑠美子（理事）、鈴木佑司（副理事長）

内 容：民間ユネスコ運動の現状に合わせて、定款および諸規程を修正・改正するための協議を行い、修正・改正案を作成した。主な修正・改正案は、2016年6月の総会に提示する。

開 催 日：2015年8月24日、9月7日、10月5日、10月29日、12月2日、2016年2月3日、2月23日

(2) 「世界遺産年報 2016」アドバイザーグループ

開催日：2015年7月29日

委嘱事項：「世界遺産年報 2016」出版に関わる専門的立場からの監修、助言

座長 西村幸夫(日ユ協連顧問、東京大学先端科学技術研究センター所長・教授)

メンバー 岡田保良(日本イコモス国内委員会、国土舘大学教授、イラク古代文化研究所所長)、矢野和之(日本イコモス国内委員会事務局長、株式会社文化財保存計画協会代表取締役)、吉田正人(IUCN 日本委員会会長、筑波大学大学院人間総合科学研究科教授)、米田久美子(財団法人自然環境研究センター研究主幹)

(3) 青少年ユネスコ活動助成審査会

開催日：2015年5月12日

委嘱事項：青少年ユネスコ活動助成の申請事業について、申請書類をもとに助成交付の可否及び助成交付金額の決定

委員 野口昇(理事長)、小出寛治(評議員)、中村優子(理事)、間瀬雅晴(理事)

(4) 未来遺産委員会

日時 2015年12月7日

場所 東京大学(東京都文京区)

委嘱事項 「プロジェクト未来遺産」の選考、調査協力、広報協力

委員長 西村幸夫(日ユ協連顧問、東京大学先端科学技術研究センター所長・教授)

委員 酒井暁子(横浜国立大学大学院准教授)、齊藤裕嗣(東京文化財研究所 無形文化遺産部 研究員)、土屋 誠(琉球大学名誉教授)、名越章浩(日本放送協会解説委員)、渡瀬 修(トヨタ自動車株式会社レクサス国内営業部部长)、西山 厚(帝塚山大学文学部文化創造学科教授)、西山徳明(北海道大学観光学高等研究センター長)、野口 昇(公益社団法人日本ユネスコ協会連盟理事長)、日野正夫(東日本旅客鉄道株式会社常務執行役員)、北条敏明(住友ゴム工業株式会社 CSR推進室 室長)、矢野和之(株式会社文化財保存計画協会代表取締役)、山腰高士(読売新聞社社会部長)、鷺谷いづみ(中央大学人間総合理工学教授) ※委員の役職等は、委員会当時もの

附属明細書

平成27年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成28年6月

公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟